

様式第3号(第7条関係)

会 議 録

- 1 附属機関の会議の名称 令和8年度第1回水戸市協働推進委員会
- 2 開催日時 令和8年5月27日(水) 午後1時30分から3時25分まで
- 3 開催場所 水戸市役所4階 中会議室1～3
- 4 出席した者の氏名
 - (1) 委員 瀬尾 匡輝、大野 覚、松橋 義樹、谷萩 美智子、大竹 隆志、
鹿倉 よし江、加瀬 理、菊池 薫
 - (2) 執行機関 【市民生活課】課長 入野 高司、
副参事兼課長補佐 鬼沢 隆文、
協働係長 増子 博理、主事 田中 かずさ
【文化交流課】交流係長 成澤 知美、主事 山崎 未苗
【生活安全課】空家空地活用係長 大森 貴広
【保健衛生課 動物愛護センター】
所長 川田 結実子、愛護係長 江原 綾香
【高齢福祉課】技佐 海老沢 明子
【都市計画課】参事兼課長 須藤 文彦、景観室長 権瓶 厚、
景観係長 磯前 由紀、主事 高松 亜優美
【商 工 課】主幹 埴 琴絵
【ごみ減量課】ごみ減量係長 海老澤 清一郎、主事 大滝 啓太
 - (3) その他 一般社団法人 オリーブ協会
特定非営利活動法人 ふるさと空き家相談・サポート
いばらきのシッポの幸せの会
特定非営利活動法人 ちいきの学校
さととし
23RDまちづくり株式会社
茨城高等学校国際教養コース・これミラ班
- 5 議題及び公開・非公開の別 水戸市協働事業提案制度「わくわくプロジェクト」令和7年度
事業報告会(公開)
全体審議(非公開)

- 6 非公開の理由 (全体審議)
- ① 公にすることにより、当該団体の権利、競争上の地位その他
正当な利益を害するおそれがあるため。
- ② 公にすることにより、率直な意見の交換若しくは意思決定の
中立性が不当に損なわれるおそれ又は不当に市民の間に混乱
を生じさせるおそれがあるため。
- 7 傍聴人の数(公開した場合に限る。) 7人
- 8 会議資料の名称 令和7年度実施事業の概要
- 9 発言の内容

【事業報告会】

事務局	(開会の挨拶、進行についての説明)
委員長	ただいまから、水戸市協働事業提案制度「わくわくプロジェクト」 の令和7年度実施事業の事業報告会を始める。令和7年度に実施した 7事業について、協働事業者と市担当課から、事業の成果や今後の展 望について発表していただく。
協働事業者 文化交流課	【発表：若い世代で戦争の紙芝居を伝承しよう～デジタル化による新た な紙芝居を創る～】
委員	テレビ放送や講習会等を通して全国へ発信ができており、すばらし い活動だと思った。親子でやることに非常に意義があると思う。 パソコンの都合なのか、参加人数が限られていることが残念だが、 今後の展望はあるか。
協働事業者	必要なパソコンの台数が増えると経費がかかるという資金的な課 題と、参加生徒一人につき一人のサポートが必須であるため人員の確 保という課題がある。 人員の確保については、昨年度参加の小学生、中学生が今年度はサ ポート役をやりたいと言ってくれている。活動を続けていけば、そう いったサポーターが増えていくのではないかと考えている。
委員	探究学習が加わっているのがすばらしい。世界情勢が不安定な中で 平和について考えなければいけないと思う。 デジタル化が進むとどうしても画面越しの他人事感があり、入り込 むことが難しい面があるが、本事業の成果物には紙芝居のレトロ感が 出ていてとても良いと思う。 参加した小学生や中学生の生徒たちは、どのように感じていた様子 だったか。

協働事業者	戦争があったこと、原爆が投下されたことは知っていても、水戸市にも戦争の被害に遭った人がいることは知らないようであった。そのような方の動画を見てもらったことで、かなり身近に感じてもらうことができた。他人事ではなくなるべく自分のこととして感じてもらえるようにお話をすることで、4回終わる頃には「今度は自分たちが広めていく方に回りたい」と大変力強い言葉を聞くことができた。 そういった言葉を聞いて、受け身ではなく事業者と一緒に側になってもらうことの重要性を確信した。 今年度も協働事業を進める上で、伝える活動についても次世代と一緒にやっていきたいと思う。
委員	参加した生徒には、ぜひ自身の学校で広めてもらいたい。 広く伝えるという意味で、ネットに上げることは考えているか。
協働事業者	ネットに上げることは可能だが、しばらくは学校でパワーポイントで動かしながらの対面での朗読という形を続けていきたいと思う。同時に、いつでも見られるようにDVDを置いてくることで、対面で関係性を築きながら今後のメンバーを募っていければと思う。 ゆくゆくはYouTube等を活用し、ネットでの配信も行っていければと考えている。
協働事業者 生活安全課	〔発表：空き家に関するワンストップ総合相談窓口事業〕
委員	水戸市に限らず日本社会全体が抱える課題に対し、窓口として機能されていることが伝わった。 周知の手段として2種類のチラシを挙げられていたが、こういった場所に置いていたのか。またチラシの反響はどうだったか。
協働事業者	「相談窓口について」及び「セミナー開催について」の2種類のチラシを、水戸市内の市民センター34か所、図書館7か所、社会福祉協議会に置いた。 結果として、相談のきっかけは窓口からの紹介が圧倒的に多く、チラシは3%であったことから、チラシの効果については検討が必要だと考えている。
委員	3年間の活動を通して市民の方の認知度が上がってきた中で、更に広報をどのように工夫するか考えていただけると良いと思う。
委員	多くの実践数と解決件数があることから、3年で終わってしまうのは非常にもったいないと感じる。空き家問題の性質上、行政と連携しているという信頼感が事業の強みとなっている。事業を通して築いたネットワークを資産として、来年度以降に繋げていっていただきたい。 協働評価シートでカスハラに関して言及があったが、こういった問合せがあったのか。
生活安全課	隣の空き家が管理されていないという相談が多く寄せられる中で、感情的になって「すぐに対応してほしい」と相談を受けることがあつ

	た。 その際には情報共有を行い、市役所としてできることや所有者が法的にやらなければならないこと等を適切に説明して対応した。
委員	我が家の周りにも空き家があるが、最近手入れをする方が増えてきているように感じるため、事業の効果があったのかなと思いながら聞いていた。 空き家になってしまう前の事前準備とは、どのようなことをするのか。
協働事業者	空き家になることが予想される場合、まずは家族間や親戚間で、例えば登記簿上の所有者を誰にするのか等、今後どうしていくのかについて話し合いをしていただきたい。皆が同じ認識で同じゴールを設定すれば進みが早くなると思う。
委員	エンディングノートのような感覚で準備を進めておくことが将来のために大切だと理解した。
協働事業者 保健衛生課 動物愛護センター	【発表：地域と動物の共生プロジェクト】
委員	水戸市は殺処分ゼロだとしても、例えば茨城町等は野犬や野良猫が多いと聞く。近隣市町村との連携や話し合いは行っているのか。
協働事業者	各市町村のボランティアに相談が来ることが多いが、時には市町村の境界線を越えて譲渡等の活動を行うこともある。
委員	自治会や町内会の加入率が下がっており、新聞を取る人も減っている状況では、回覧板や新聞折り込みのPR効果は薄れてしまうのではないかな。 また、市民センターでステッカーを見たことがない。
協働事業者	御指摘のとおり状況下で、その中でも飼い主の方に響くかどうかは藁をも掴む思いだが、活動を続けていくこと、正しい知識を伝え続けることが活動の広がり大きな成果に繋がると信じている。 ステッカーについては市民センターに置いておらず、水戸市内の獣医師に依頼し来院者への配布を行っている。
委員	周知が重要な事業だと思うので、ドラッグストアやスーパー等、地域の大型店の活用も考えていくと良いと思う。
委員	水戸市はボランティアによる譲渡会が活発な市なのか。
協働事業者	水戸市は譲渡会が非常に盛んに行われている市だと考えている。 特に猫はかなりの数を保護している方がおり、それに伴い譲渡会の開催数も多い。
委員	保護猫や保護犬の飼い主になる人は責任感のある人が多い時代だ

	と思う。 獣医師会との密接な関係を活かし、野良猫や野良犬の問題にももっと取り組んでもらえると良いと思う。
協働事業者 高齢福祉課	〔発表：ドライバーサポートフィットネス「ドラサポ」〕
委員	これまでは水戸市東部での開催が多かったが、西部での開催が増えてきて良かった。 今回は人件費がゼロになっているが、講師のトレーナーへの謝礼はどうなっているのか。
協働事業者	NP0法人ちいきの学校の所属メンバーがトレーナーを務めているため、謝金等は発生していない。
委員	事業内容についてはすばらしいと思う。 運動機能向上率と認知機能向上率、実施会場数、参加人数について、数字の解釈の仕方が分からない部分があるのでお聞きしたい。
協働事業者	運動機能向上率と認知機能向上率については、1年ごとの向上率を算出した上で、3年間の平均を算出している。 実施会場数についてはスライド上、3年間で使用した累計6会場を記載している。 参加人数についてはスライド上、延べ人数を記載している。
委員	社会課題をテーマとする本事業は、是非継続してほしいと思う。 企業からも声がかけているとのことだが、どのように進めていくのか展望があればお聞きしたい。
協働事業者	講座で使用している体力測定機械の開発企業が本事業に興味を持ち、視察に来ている。今後は協力しながら良いものを作っていければと思う。
協働事業者 都市計画課	〔発表：しもいち実証実験教室〕
委員	マルシェは川崎紙工の空き店舗1軒のみで行ったのか。
協働事業者	昨年度は川崎紙工の空き店舗に9名が店を出す形で行った。今年度も同じ形態で行いつつ、場所の検討等により、更なる展開を考えている。
委員	自分のところにはイベントの情報が届いていない。PR方法を見直してはどうか。
協働事業者	昨年度はチラシや水戸市公式LINEでのPRにより800名来場があったが、更に来場者を増やせるように策を考えたいと思っている。
委員	来場者の年齢層は若い人が多かったのか。

協働事業者	こどもからお年寄りまで、幅広い年齢層の来場があった。
委員	2人のコーディネーターとしての力を感じられる発表であった。 800人の来場者との繋がりから輪が広がっていくことが事業の継続性に繋がると感じているが、今後の展開として考えていることはあるか。
協働事業者	運営を担ってくれる人の募集に力を入れ、事業を知ってくれたり興味を持ってくれたりした人と繋がっていかれたらと考えている。 それぞれの挑戦に対し共感する人が現れ、既に次の展開が見えてきている参加者もいる。そういった広がりや波及を増やすことを目指したい。
委員	初めは告知が行き渡っていないという意見を持ったが、報告書や資料から、灯籠流しや講習会、遠足等を通して地元の方との関係を築き、会場の器作りからよく考えて協力して準備していることが伝わり、事業に対する印象が大きく変わった。 渋谷への遠足は会計に載っていないが、どのように実施したのか。
協働事業者	さととしのメンバーが地域に密着しながらも地元を離れて活動しているという特性があることから、希望者を募り現地集合・現地解散の形で遠足を行った。
協働事業者 商工課	【発表：次世代継承店舗と学生がつくるまちづくり ～起業ゲームから実践へ～】
委員	参加学生にとって刺激的な学びになっていると思う。これからの時代、学びのプロセスが入っている事業は非常に重要なものだと思う。 お店への入りにくさの対策として、お店の外での地域交流の場作りを挙げられていたが、そのほかにも間口を広げるようなアプローチは考えているか。
協働事業者	空き地に休憩所を作り、学生たちと地域の方々が話をできる場ができると良いなとイメージはしているが、具体的なことはまだこれからとなる。
委員	参加した学生たちが活動を通して、エリア近くに来た人にアプローチするスキルを身に付けられると良いと思う。 大人の関わり方や世代を超えた関わり方といった視点を入れて事業を行っていくと、更なる展開が期待できると考える。
委員	昨年度の参加学生と今年度新たに参加する学生とを繋ぎ、昨年度の経験を活かして一緒に事業をブラッシュアップしていけるような取り組みができると良いと思う。
協働事業者	昨年度の参加学生は「もうやりきった」と言う者もいれば、「今年もまたチャレンジしたい」と言っている者もいる。再び参加してくれた学生が引っ張っていつてくれることを望む。

委員	いろいろな専門家が携わっていることで、しっかりしたプログラムやストーリー立てとなっている。 「次世代継承」の要素についても深掘りしていただければと思う。 保和苑等特殊な地域資源のあるエリアであり、それに付随する歴史ある店舗は、地域の方としても残ってほしいという思いがあると思う。そのような店舗との繋がりが残って見えていくことで、この取り組み自体が進化していくと思う。
協働事業者	対象のエリアについて地域の方々からは、かつては毎日人で賑わっていたという話を聞く。今後も地域の方の話を聞きながら、賑わいを取り戻せるようなお店の在り方、地域商店の在り方を示していくことに取り組んでいけたらと思う。
協働事業者 ごみ減量課	【発表：参考書バンク】
委員	譲渡するにはダメージが酷かったり古すぎたり等、再利用が難しい本はどのくらいあったか。
協働事業者	譲渡に適さない本は500冊中50冊程度あったが、その中で可能なものについては「こどものみらい古本募金」へ寄附をしている。回収した本はできる限り無駄にしないようにしたい。
委員	告知の時点で、人の手に渡る物であることを注意書きしておくと思う。 出版社への配慮を課題に挙げられていたが、こういった対策を考えているか。
協働事業者	まだ良い案が生まれていないので、その対策を考えながら今年度の活動を実施していきたい。
委員	一案として、例えば経済的に困窮している家庭のこども等に対象を絞るといった対策が考えられる。
委員	譲渡先には衛生面を気にする層もいると思うが、どのように考えているか。
協働事業者	既に実施していることとしては、綺麗な段ボール箱に保管することで、できるだけ本を綺麗に保てるように工夫をしている。 衛生面についてはあまり話し合ったことがなかったので、今後は気をつけていきたい。
委員	譲渡会を通して得た具体的なニーズや気づきはあるか。
協働事業者	検定の本や入試の参考書のニーズが最も高かった。
委員	今年度は、昨年度のニーズも踏まえながら具体的な計画を立てて動いていただけると良いと思う。